7月 23日（木曜日）「祭司と民の罪」

【新改訳 2017】

ホセア書　4•1－19

「だれもとがめてはならない。……しかし祭司よ。わたしはあなたをなじる。あなたは昼つまずき、預言者もまた、あなたとともに夜つまずく。……わたしの民は知識がないので滅ぼされる。……」（4－6節）

ここには BC700年ごろのイスラエルの霊的混乱状態が繰り返し指摘されています。特に神がホセアを通して断罪されたのは、祭司たちや預言者たちの堕落、罪、咎でした。為政者たちの混乱もさることながら、霊的指導者たちがその役割を果たさず、かえって罪を犯していました。このため神はご自身を隠すと言われたのです（5•15）。

神は全き愛で愛し続けてくださったのに、それを民に知らせ、共に恐れと感謝をもって礼拝することを指導すべき指導者たちが、真の神知識を欠き、欲望を満たす宗教的行為に堕ちていったのです。神の祝福を得られないばかりか、自らの民をも不幸にしてしまいました。指導者たちの責任は重いのです。彼

らのために祈らねばなりません。

～祈り～

主よ。どうか、教界の指導者と言われる人たちを守り、助けてください。特に、教職者たちが世俗化してしまうことのないように守ってください。

【学びのために】

教会や広く教界の指導者の責任、立場、環境などを覚え、祈ることの大切さを考えてみましょう。ヘブル13•17参照。